

東京都

定 数： 22 名

立候補者数： 27 名



氏名 梶原 侑馬
氏名ふりがな かじわらゆうま
都道府県士会 東京都
年齢 35
勤務先名称 NTTデータ経営研究所

日本理学療法協会活動歴

2022年～現在 (公社) 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士(協)会活動歴

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年～2022年 (一社) 日本予防理学療法学会 理事
2021年～2022年 (一社) 日本理学療法学会連合 広報委員会

立候補の趣旨

私は、臨床、大学発ベンチャー、ヘルステック企業を経て、現職のコンサル・シンクタンクで仕事をしています。ヘルスケア業界で蓄積された現場の声や知見に基づく洞察を活かし、データやテクノロジーも重視しながら、ヘルスケア・スポーツ・教育・電子政府・観光・まちづくりにおける最新技術活用を用いた戦略コンサルティングに従事しており、内閣府、こども家庭庁、厚労省、スポーツ庁、総務省、デジタル庁の案件にも携わっています。産官学連携活動や診療報酬改定に関係のある仕事もしています。

今後、理学療法、特に予防や健康増進の分野においては、既存の臨床や研究の知見だけであると、理学療法士の職域拡大や知名度向上、質向上などは期待できないと思っています。その際に、多くの分野を経験した上で、統合解釈し、AI・テクノロジーを有効活用したビジネス経験がある人材や異分野・産学官が連携した分野横断的な活動が必ず必要となります。リアルとデジタルを共存させ、今までとはまた違う価値を生み出すことができなければ、療法士の予防・健康増進分野は特に他業界にいいポジションを取られてしまうと本気で思っています。そこで、コンサル・IT業界等の知見がある人は代議員に必要です。

協会活動を通じて、データ・テクノロジーを重要視し、イキイキとした社会を創り、結果的に健康になっていた環境づくり、健康維持が生きがいや楽しさにつながる体験の再設計などの方法も模索していきたいと思っています。

皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 栗田 慎也
氏名ふりがな くりたしんや
都道府県士会 東京都
年齢 39
勤務先名称 東京都立大久保病院

日本理学療法協会活動歴

2019年8月～2024年3月：日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2009年～現在：東京都理学療法士協会 学術局 新人教育部
2015年～2021年8月：東京都理学療法士協会 大田区支部
2015年～2017年：東京都理学療法士協会 区中央部・区南部・島しょブ
ロック世話人
2017年～現在：東京都理学療法士協会 代議員
2017年～2021年9月：東京都理学療法士協会 公開講座準備委員会
2024年4月～現在：東京都理学療法士協会新宿区支部 部員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2024年7月～現在：日本支援工学理学療法学会 理事

立候補の趣旨

私は、公益社団法人日本理学療法士協会代議員に立候補いたします栗田慎也です。過去3期にわたり代議員を務めましたが、前回選挙では落選しました。会員の声を総会の場に確実に届け、協会運営の実効性を高めるため、再挑戦いたします。任期中は代議員総会に全て出席し、都度の事前質問や個別に協会事務局への確認連絡、総会（対面）での質問・意見を行ってきました。その主な論点は「生涯学習」と「会費の運用」です。臨床の現場で働く会員が多い現状を踏まえ、現場課題を協会の意思決定につなげることが代議員の役割だと考えます。私が今後取り組みたいことは、①生涯学習制度の改善提案（登録理学療法士制度の運用見直し、認定理学療法士更新における重複研修の整理、関連学会でのポイント付与の再提案）、②会費の適切な運用（収入源の多様化や支出の点検を含む）、③臨床現場の声の集約と改善要望の提出（必要時には協会へ具体的に照会・提案）です。これらを中心に疑問も放置せず確認して会員への説明責任を果たします。また、都士会でも異動のたびに所定の申請を行い、ブロック変更等の手続を遵守してきました。代議員として規程に基づく責任ある運用を引き続き徹底します。最後になりますが、もう一度、代議員としてのチャンスをいただきましたらと思います。以上が私の代議員立候補の趣意説明となります。



氏名 小山 貴之
氏名ふりがな こやま たかゆき
都道府県士会 東京都
年齢 48
勤務先名称 日本大学文理学部

日本理学療法協会活動歴

2022年～現在 日本理学療法士協会代議員
2016～2021年 日本理学療法士協会ガイドライン用語・策定委員会・作成班
2019～2020年 日本理学療法士協会研究推進委員会委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2011年～現在 東京都理学療法士協会・学術局研究推進部部長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2017～2018年 第5回日本スポーツ理学療法学会学術大会会場部長
2019～2020年 日本スポーツ理学療法学会運営幹事
2021～2022年 日本スポーツ理学療法学会理学療法標準化検討委員会委員長
2021～2022年 第9回日本スポーツ理学療法学会学術大会準備委員長
2022年～現在 日本スポーツ理学療法学会理事

立候補の趣旨

これまでスポーツ理学療法診療とスポーツ科学・体育領域の教育・研究活動に努めてきました。東京都理学療法士協会では研究推進部の部長として、若手理学療法士の理学療法研究の啓発を中心に講習会や研究助成活動を継続的に行っております。学会活動は日本スポーツ理学療法学会の運営幹事、委員会委員長、理事を歴任し、現在はスポーツ理学療法におけるミニマムスタンダードとなる理学療法評価の標準化を担当し、委員会委員とともに標準評価の作成を進めております。

職能と学術活動は理学療法の根幹をなすものです。上記の通りその両者に関わってきた身として、協会活動と学会活動の連携を深めていきたいと考えております。自身の経験を活かすだけでなく、より多くの若い理学療法士の意見や考え方を集約しながら、引き続き代議員として当協会のさらなる発展、理学療法士の地位向上に貢献したいと考え、立候補することといたしました。



氏名 保苅 吉秀
氏名ふりがな ほかり よしひで
都道府県士会 東京都
年齢 55
勤務先名称 順天堂大学医学部附属練馬病院

日本理学療法協会活動歴

2018年～日本理学療法士協会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2011～2012年日本理学療法士協会 神経部会運営幹事
2013～2021年日本理学療法士協会 日本神経理学療法学会 運営理事
2021年～日本神経理学療法学会 理事

立候補の趣旨

私は大学病院で勤務して32年になります。臨床では脳梗塞・脳出血など脳血管疾患における急性期症例に関わって参りました。また、パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患、脊髄疾患の術後症例などを多く経験してきました。さらに骨関節系、呼吸器など様々な疾患や、それぞれの症状を伴う複合的な症例も多く関わって参りました。近年、脳梗塞では血栓溶解療法や血栓回収術、パーキンソン病では脳深部磁気刺激療法など医療機器の発展に伴う新たな技術の開発、画像診断の多様化による病状診断の精度の向上、高齢化による様々な合併疾患に伴う重複した症状による臨床像の変化により、理学療法士に求められる知識と技術も多様になってきていると感じております。リハビリテーションの分野でも、再生医療やロボティックスの導入が現実となっており理学療法士として、先進的な医療に注目すると同時に、理学療法の視点からどのように機能改善を提供出来るかを求められていると感じております。これらのことを踏まえて、臨床に関わる立場から、意見を発信し任務を全うしたいと考えております。これまででも代議員を務めて参りましたが理学療法の発展のために引き続き任務を遂行したく立候補いたしました。宜しく願いいたします。



氏名 松田 雅弘
氏名ふりがな まつだ ただみつ
都道府県士会 東京都
年齢 47
勤務先名称 順天堂大学

日本理学療法協会活動歴

日本理学療法士協会 日本支援工学理学療法学会 運営幹事（平成26年～令和3年3月）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

卒前検討委員会 委員（令和4年～現在に至る）
研究推進部 部員（令和3年～現在に至る）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

第1回、第13回日本支援工学理学療法学会学術集会 大会長（平成26年12月、令和6年12月）
日本支援工学理学療法学会理事（令和3年4月～）
日本神経理学療法学会理事（令和3年6月～令和6年6月）
一般社団法人 日本支援工学理学療法学会 理事長（令和3年～現在）

立候補の趣旨

日本理学療法学会連合においては、日本支援工学理学療法学会の理事長などを務め、義肢・装具、福祉用具、先端技術を活かした理学療法の普及や学術事業の推進に力を入れてきました。また、東京都理学療法士協会では、臨床実習指導者講習会が円滑に進むよう、東京都内の全養成校の取りまとめなど、事務機能面での支援を行い、臨床実習教育の整備に協力してきました。

理学療法士の職能の拡大、研究の深化、さらには教育の多様化など、理学療法を取り巻く環境は大きく変化しています。そのような中で、改めて理学療法士の果たす役割の重要性を実感しつつ、これまで関わってきた事業をさらに推進していきたいと考えています。このたび代議員選挙に立候補するにあたり、日本理学療法士協会の取り組みに対しても、一人の理学療法士としてしっかりと見守り、協働していくことが必要であると考えました。魅力ある理学療法を広く社会に発信し、将来を担う理学療法士を育成するとともに、多くの国民の健康を支える専門職として、理学療法のさらなる発展に寄与していきたいと考えております。



氏名 渡邊 祐介
氏名ふりがな わたなべ ゆうすけ
都道府県士会 東京都
年齢 45
勤務先名称 東京脊椎クリニック

日本理学療法協会活動歴

平成29年～平成31年 スポーツ支援推進執行委員会総務小委員会
令和03年～令和06年 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成28年～現在 地域活性局区西北部ブロック部北区支部部員
平成28年～現在 公開講座準備委員会委員
平成29年～現在 スポーツ局部員
令和05年～現在 スポーツ局子どもの健康・安全部 部長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私は、理学療法士という専門職が、これから迎える2040年問題の中で、どのような役割を担い、どのように変化していくべきなのかを、現場の声として協会に届けたいと考え、代議員に立候補いたしました。

2040年に向け、日本はこれまで経験したことのない高齢化と人口構造の変化を迎えます。医療・介護の需要は量だけでなく質が大きく変わり、「治す」から「支え続ける」ことが求められる社会になります。その中で理学療法士には、身体機能の改善にとどまらず、生活や地域を見据えた専門性が一層期待されていると感じています。

一方で、現在、Z世代と呼ばれる新しい世代の理学療法士が次々と現場に加わっています。彼らはデジタルネイティブとして育ち、情報へのアクセスや価値観、働き方において、これまでとは異なる感覚を持っています。その結果、理学療法士という職能が質的な変化の過程にあると感じています。しかし、現場では、将来への不安、キャリアの見通しの不透明さ、協会や制度との距離感に悩む声も聞かれています。これからの日本を背負っていく世代が、「理学療法士であり続けたい」と思える環境を整えていく必要があると感じています。

私は、日々の臨床や地域での活動を通じて感じてきた、こうした現場の率直な声を、世代間をつなぐ形で協会に届けたいと考えています。2040年を見据え、理学療法士の未来を共に考え、現場と制度をつなぐ代議員として役割を果たしていきたいと思っております。



氏名 宮森 隆行
氏名ふりがな みやもり たかゆき
都道府県士会 東京都
年齢 50
勤務先名称 順天堂大学

日本理学療法協会活動歴

2024年～ 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2023年～ 東京都理学療法士協会 理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2022年～ 日本スポーツ理学療法学会 国際委員会 委員長

立候補の趣旨

私は、2024年から日本理学療法士協会の代議員として、総会の議案審議・議決に責任を持ち、協会運営の理解を深めながら、会員の声を丁寧に受け止める姿勢を第一に活動してきました。大学教育と臨床実践の両面から、会員の学びが臨床の質に直結する提案を行います。2期目は、教育・研究・診療実践を幅広く担ってきた強みを生かし、「現場で本当に使える支援」と「社会に届く理学療法」の両立を、代議員として具体的な提案に落とし込みます。

重点は3点です。

- ①生涯学習と人材育成：若手から中堅までが迷わず成長できる研修・学習導線を重視し、現場での再現性が高い教材や評価の整備、学びの成果が臨床の質につながる仕組みづくりを推進します。
- ②臨床現場の課題解決支援：医療・スポーツ・地域・学校など多様な現場で生じる課題を整理し、会員が実践しやすい形（情報提供、モデル、連携枠組み）で支援につなげます。
- ③研究と実践の橋渡し・社会発信：研究知見を“現場で使える言葉と手順”に翻訳し、理学療法の価値を他職種・行政・地域へ伝える発信を強めます。

私は対話を軸に、都道府県や領域を越えて意見を集約し、総会の議決につながる提案を積み重ねます。会員の皆様とともに「現場の力が組織の力になる協会」を前進させるため、2期目に立候補します。



氏名 金森 宏
氏名ふりがな かなもり ひろし
都道府県士会 東京都
年齢 50
勤務先名称 みなみ野病院

日本理学療法協会活動歴

令和6年度介護報酬改定に係る要望等のあり方検討会 介護報酬構成員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成30～31年度 東京都理学療法士協会西多摩・南多摩ブロック代議員
令和4～7年度 東京都理学療法士協会西多摩・南多摩ブロック代議員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私はこれまで、八王子市の地域医療・リハビリテーションを支える医療法人永生会において、外来部門15年、通所リハビリテーション5年、回復期リハビリテーション4年と、約20年にわたり臨床の現場に携わってまいりました。

また、市の理学療法士による健康相談業務や乳幼児発達検診、地域での講師活動などを通じて、理学療法士が地域社会の中で果たすべき役割について継続的に考え、実践してきました。

令和6年度の「医療・介護・障害福祉のトリプル改定」に際しては、日本理学療法士協会の検討会構成員として参画する機会を得ました。その経験を通じて、現場で生じている切実な課題や声を、いかに具体的な制度提言へと結びつけていくかが、職能団体にとって極めて重要であることを強く実感しました。

次期令和8年度の診療報酬改定では、医療・介護のさらなる地域連携、多職種協働の深化、そして理学療法士に求められる専門性の在り方が、これまで以上に問われる内容になると考えています。理学療法士の職域を守り、将来にわたり発展させていくためには、制度を正しく理解し適切に運用する視点とともに、臨床現場で培われた経験や課題意識を、職能全体の議論へと還元していく役割が不可欠です。

私は、会員の皆様が日々の臨床の中で感じている課題や疑問を共有し、理学療法士の価値を社会に示していくため、代議員として職能団体の発展に貢献したいと考え、立候補いたしました。

何卒よろしくお願いいたします。



氏名 豊田 輝
氏名ふりがな とよた あきら
都道府県士会 東京都
年齢 50
勤務先名称 帝京科学大学

日本理学療法協会活動歴

2012年 代議員（2018年まで、2022-2026年まで）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2012年 理事（現在に至る2021-2025年副会長、2025年-会長）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年 日本理学療法管理学会 理事（副理事長、現在に至る）
2022年 日本支援工学理学療法学会 理事（現在に至る）

立候補の趣旨

この度、日本理学療法士協会代議員に立候補いたしました、豊田輝です。
私が立候補を決意した理由は大きく二点あります。第一に、「社会に貢献できる理学療法士の組織づくりと人材育成の推進」に寄与したいこと。第二に、「理学療法士の社会的地位の向上」に力を尽くしたいと考えたためです。
私たち理学療法士は、日々対象者のために研鑽を重ねております。しかし、近年の社会情勢の変化に伴い、社会から求められる役割や期待は大きく変わりつつあります。こうした要請に柔軟に適応しつつ、専門性をさらに高めていくことが今後ますます重要になると考えております。
保健・医療・福祉の専門職として、これからの社会を見据え、何を準備し、どのような能力を磨くべきかを改めて点検し、変わらず守るべき専門性と、発展させるべき専門性を見極めていく必要があります。
そのためには、本会の生涯教育体制が「理学療法士のための理学療法士による教育」にとどまらず、「社会からの要請を職能団体として受け止め、双方向性をもった教育体制」へと進化していくことが不可欠であると考えます。
私は、社会の期待に応えられる理学療法士の基盤づくりとして、質の高い研鑽を位置づけ、職能団体としての「自己責任」と「自主・自律性」に基づいた教育体制の構築に尽力したいと考えております。
最後になりますが、会員一人ひとりが本会の理念を共有し、共感できる環境と機会を整え、理学療法士としての専門性を最大限に発揮し、地域社会により大きく貢献できるよう、東京都会員の皆さまのご意見を丁寧にお伺いし、日本理学療法士協会執行部へ確実に届けてまいります。代議員として誠心誠意努める所存です。



氏名 岡安 健
氏名ふりがな おかやす たけし
都道府県士会 東京都
年齢 54
勤務先名称 東京科学大学病院

日本理学療法協会活動歴

代議員（東京）2014年～現在
第59回日本理学療法学会学術研修大会 準備委員長

都道府県理学療法士（協）会活動歴

副会長 2025年～現在 理事 2018年～現在
総務部長 2018年～2025年 ライフサポート部長 2016年～2018年
組織運営検討委員会 委員 2023年～現在

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

今回、私は日本理学療法士協会（以下、協会）代議員選挙に立候補させていただきました。現在の理学療法士数は200,000人を超える規模となっておりますが、協会の会員数は約140,000人であり、組織率は徐々に低下傾向であることが、懸念事項の一つでもあります。会員数が10,000人を超える東京都理学療法士協会（以下、都士会）においても同様の現象があり、現在、執行部一同にて対策を講じております。このような現象が起こる背景には、協会への入会意義が見いだせない会員の方が多数存在することにあると痛感しております。都士会理事の立場から支払う会費に見合った福利を構築する対策案として、学術面においては学習機会の増加を目指した研修会の充実、東京都理学療法士大会の運営指針再整備を目指していく所存でございます。また、職能面においては、理学療法士の処遇改善への活動を積極的に展開することに加えて産業理学療法等の職域拡大に取り組みしていきます。都士会運営面においては、事務局機能の強化により各種申請補助業務や会費管理業務を充実していくことを目指していきます。事務局機能の強化がなされれば会員の皆様にとって円滑な診療活動の一助となる事が期待されます。以上の活動により会員の皆様にとって協会や都士会への入会意義が高まり、入会率の向上がなされれば、医療団体として、より強固な組織になるとともに会員の皆様に対する福利が還元できると考えております。このような体制構築には都士会と協会との連携が必要不可欠となります。協会代議員として選出いただくことが叶いましたら、協会執行部の運営状況を詳細に確認し、都士会運営に生かしていきます。また、協会執行部へ都士会会員の要望を伝達し、共に協議できる「風通しの良い」都士会運営を目指していきます。長文となりましたが、会員の皆様のご支援を賜れば幸いです。何卒、よろしくお願いいたします。



氏名 相澤 純也

氏名ふりがな あいざわ じゅんや

都道府県士会 東京都

年齢 48

勤務先名称 順天堂大学

日本理学療法協会活動歴

2011-2013 運動器理学療法研究部会運営幹事
2017-2019 日本スポーツ理学療法学会（JSSPT）運営幹事
2018-2019 第5回JSSPT学術大会準備委員・総務部長
2019-2020 第6回JSSPT学術大会準備委員・学術部長
2019-2021 第7回JSSPT学術大会準備委員・演題部長
2019-2021 JSSPT常任運営幹事
2022-現在 代議員（東京都）
2023-現在 スポーツ理学療法業務推進部会部会員（2025-副部会長）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

1999-2006 東京都理学療法士会事務局総務部員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2020-2021 第8回JSSPT学術大会副学術大会長
2021-2022 第9回JSSPT学術大会学術大会長
2021-現在 一般社団法人JSSPT理事長
2021-現在 一般社団法人日本理学療法学会連合理事（研究安全・学術倫理委員会担当）

立候補の趣旨

理学療法士となり都内大学病院に入職してすぐに東京都士会で総務部員となりました。当時の理事や部長のご助言で様々な社会勉強をさせて頂き、それらが現職の礎となっております。理学療法士となり27年間、士・協会には臨床・実践、研究、教育、そして社会貢献の機会を頂きました。ご恩返し継続を含めて、後進、ひいては患者様や広く社会に貢献すべく、現場の声を協会に届ける役割を担えるよう代議員3期目に立候補することに致しました。ご理解、ご支援を頂けると幸いです。



氏名 森島 健
氏名ふりがな もりしまけん
都道府県士会 東京都
年齢 64
勤務先名称 月のうさぎ

日本理学療法協会活動歴

2007年～現在 日本理学療法士協会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2002年～2025年 理事
2010年～2015年 副会長兼任
2015年～2025年 会長兼任
2025年～現在 監事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

日本理学療法士協会代議員選挙に立候補させていただきました森島健です。私は、東京都理学療法士協会では2015年度より会長の職務に就いておりました。2025年に会長職を退任し、現在は監事の立場で都士会の活動に関わっております。今までは、主に事務局機能強化を念頭に置き組織力強化に取り組んできました。そのために、ブロック活動を推進し区市町村での支部活動の立ち上げに力を注いできました。また日本理学療法士協会では、今日まで代議員の役割のほか様々な委員としても活動させていただきました。日本理学療法士協会と都道府県士会は、お互いを理解し協力しあう必要があります。日本理学療法士協会からの提言を都士会員へ周知することや、また東京都理学療法士会の意見を協会へ進言することなど、そのために代議員は大変重要な役割を担う必要があると思っております。この重要な代議員という役割を東京都理学療法士協会監事という立場で継続させていただけたらと思ひ、決意を新たに立候補させていただきました。我々の団体は、会員数も増え大きな組織になりつつあります。今後は、数の増加だけでなく、実のある組織作りが必要となります。組織力を高めることにより、今後の超高齢社会に向けて、誰もが住みやすい地域社会の実現が可能になると思ひます。そのために理学療法士全員の力を結束していきましょう。私も全力で頑張ります。よろしくお願ひいたします。



氏名 中澤 幹夫
氏名ふりがな なかざわみきお
都道府県士会 東京都
年齢 56
勤務先名称 多摩丘陵リハビリテーション病院

日本理学療法協会活動歴

2010年～ 日本理学療法士協会代議員
2019年～2020年 公的保険外領域検討小委員会委員
2019年～2021年 理学療法管理部門運営監事
2021年～2022年 グランドデザイン作業部会委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2004年～2017年 東京都理学療法士協会 業務推進部長
2010年～ 東京都理学療法士協会 理事
2013年～2018年 東京都理学療法士協会 公益法人推進委員会委員長
2016年 東京都理学療法士協会 本年度学会準備委員長
2017年～2025年 東京都理学療法士協会 地域活性局長
2019年～ 東京都理学療法士協会 学会検討委員会委員長
2020年～2023年 東京都理学療法士協会 関東甲信越ブロック学会準備委員長
2023年～ 東京都理学療法士協会 副会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年 日本理学療法管理学会 理事
2024年 日本理学療法管理学会 副理事長
2025年～ 日本理学療法管理学会 事務長

立候補の趣旨

私は東京都理学療法士協会にて、長年地域活性局長としてブロック活動、支部活動を行ってきました。また、2025年よりは地域活性局長は他者に依頼し、豊田会長のもと事務局長の任を担っています。
多くの方々のおかげで、日本理学療法士協会と東京都理学療法士協会は良い関係性を築けていると思います。この関係性をより発展させ、会員のための活動の一助になればと思い立候補しました。よろしくお願いいたします。



氏名 古川 順光

氏名ふりがな ふるかわよりみつ

都道府県士会 東京都

年齢 57

勤務先名称 東京都立大学健康福祉学部

日本理学療法協会活動歴

平成19年度～平成21年度 第44回日本理学療法学会準備委員，運営調整部，学術誌作成部，人員管理部 部長
平成26年度～現在 日本理学療法士協会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成14年度～令和6年度 東京都理学療法士会新人教育部員（平成22年度～部長）
平成25年度～平成26年度 第33回東京都理学療法学会準備委員長
平成25年度～令和2年度，令和5年度～現在 東京都理学療法士協会理事
平成30年度～現在 東京都理学療法士協会学術局長
令和7年度～現在 第45回東京都理学療法学会大会大会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

このたび、日本理学療法士協会代議員に立候補いたしました。よろしくごお願い申し上げます。

私は現在、理学療法士養成校の教員として教育に携わっております。近年の教育現場は、社会構造や医療環境の変化により大きな転換期を迎えており、対面での学びや、先輩・後輩間の関係性を通じて培われてきた臨床的思考や専門職としての姿勢を、いかに次世代へ継承していくかが重要な課題となっております。

一方で、ICTの活用により学習機会は広がり、多様な学び方や働き方が求められる時代となりました。養成校教育から卒業教育、生涯学習へと連続した人材育成の仕組みを整えることが、理学療法士全体の専門性の向上につながると思っています。コロナ禍を経て顕在化したこれらの課題は、今後も継続して向き合う必要があります。

これまで、教育に加え、臨床・研究・地域連携に携わるとともに、学会大会運営や新人教育など職能団体活動にも関わってまいりました。これらの経験を活かし、代議員として会員の皆様の声を協会活動に反映させ、理学療法士の専門性と社会的価値の一層の向上に貢献したいと考えております。全国どの地域においても、理学療法士が国民の健康と生活を支える専門職として信頼され続けるために、現場感覚を大切にしながら協会運営に参画していく所存です。ご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 南雲 健吾
氏名ふりがな なぐもけんご
都道府県士会 東京都
年齢 53
勤務先名称 リハビリ企画合同会社

日本理学療法協会活動歴

日本理学療法士協会
平成25年～令和2年代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成26年～生活期共通評価表作成委員長
平成27年～理事
令和元年～福祉保健局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

重症心身障害児施設、救急医療機関、老人保健施設、訪問看護ステーション、在宅介護支援センターにて経験を積み、言語聴覚士、介護支援専門員、介護福祉士を取得し、起業理学療法士として通所介護と訪問看護ステーションを運営しております。
東京都地域包括支援センターの研修委員、立川市高齢者福祉介護計画の副会長を拝命し、外国人介護技能実習生に関連する事業にも携わらせていただき、日々地域づくりに取り組んでおります。
第38回東京都理学療学会術大会では「東京におけるスポーツと理学療法」をテーマに大会長を、TOKYO2020オリンピックでは聖火ランナーを務めさせていただきました。
養成機関の非常勤講師として高齢者理学療法、小児理学療法、吸引実技などの講義を担当し後進の育成にも勤んでおります。
質の高い理学療法士の育成と更なる社会的地位の向上を目指し、これからも汗を流してまいりたいと思っております。
代議員としての役割を担わせていただきたく、ここに立候補いたします。



氏名 池田 由美

氏名ふりがな いけだゆみ

都道府県士会 東京都

年齢 58

勤務先名称 東京都立大学健康福祉学部

日本理学療法協会活動歴

平成5年6月～平成7年5月	調査資料部部員
平成7年7月～平成9年6月	総務部部員
平成21年5月	第44回日本理学療法学会 事務局長
平成22年～現在	代議員
令和6年6月	第59回日本理学療法学会 副大会長

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成元年4月～平成3年3月	厚生部部員
平成3年4月～平成5年3月	事務局庶務部部員
平成5年4月～平成18年3月	学術局新人教育部部員
平成18年4月～平成22年3月	学術局次長・新人教育部部長
平成22年4月～令和元年5月	理事・学術局局长
令和元年6月～現在	理事・副会長 卒前教育検討委員会委員長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

令和3年7月～ 一社) 日本神経理学療法学会評議員

立候補の趣旨

私は、現在、公社)東京都理学療法士協会副会長として主に学術活動を担当し、都協会員の臨床力・教育力・研究力の向上を支援できる環境づくりに取り組んでおります。2020年度には、新しい指定規則に基づく理学療法士養成教育が開始され、診療参加型臨床実習が本格的に展開されるようになりました。また、COVID-19の蔓延により学会や研修会の対面開催が困難となり、オンラインやオンデマンドによる新たな学習スタイルが広く普及しました。このように、近年は理学療法士および理学療法士学生を取りまく学習環境が大きく変化しております。さらに、学術面にとどまらず、理学療法士の社会的身分の保証、活躍の場の拡大、国民への貢献など、取り組むべき課題は多岐にわたります。 ”魅力的な理学療法” 創出に向け、一理学療法士として協会員の皆様の声を丁寧に反映しながら、日本理学療法士協会のさらなる発展に寄与したいと考え、このたび代議員に立候補致しました。よろしくごお願い申し上げます。



氏名 真庭 弘樹
氏名ふりがな まにわ ひろき
都道府県士会 東京都
年齢 38
勤務先名称 イムス板橋リハビリテーション病院

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2023年6月～現在 公社）東京都理学療法士協会 理事（2期目）
2023年6月～現在 同協会 広報局 次長
2023年9月 同協会 第42回東京都理学療法学会 準備委員長
2025年10月～現在 同協会 組織運営検討委員会 委員長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

東京都理学療法士協会にて理事を拝命し、現在2期目を務めております。
日本理学療法士協会において、今まで活動することはできていませんでしたが、
都士会の理事を経験し、日本理学療法士協会との連動がとても重要であることを
感じております。

多世代の理学療法士がいる中で、「世代間でシナジーを起こす」ことが
私の協会活動のテーマです。日本理学療法士協会の代議員を務めることで、
世代間の協調・協力そして協創していくためにも、
日本理学療法士協会の活動に関わっていきたいと考えています。

私は代議員として新たな一歩を踏み出し、世代間シナジーを起こす
起点になればと考えております。そして、ご賛同いただける皆様と共に
より良い未来を創っていきたいと考えております。

何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 古谷 英孝
氏名ふりがな ふるや ひでたか
都道府県士会 東京都
年齢 49
勤務先名称 苑田第三病院

日本理学療法協会活動歴

2024. 4 - 現在 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2015. 1 - 2020. 3 東京都理学療法士協会 ライフサポート部
2014. 4 - 現在 東京都理学療法士協会 公開講座準備委員
2014. 4 - 現在 東京都理学療法士協会 教材資料部

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2019. 4 - 2019. 12 第6回日本スポーツ理学療法学会学術大会 準備委員
2021. 5 - 2023. 2 第9回日本予防理学療法学会学術大会 副準備委員長
2022. 6 - 2023. 3 第9回日本スポーツ理学療法学会学術大会 準備委員
2023. 8 - 2024. 12 第12回日本運動器理学療法学会学術大会 準備委員
2021. 8 - 現在 日本スポーツ理学療法学会 評議員
2021. 8 - 現在 日本運動器理学療法学会 評議員
2024. 9 - 現在 第14回日本運動器理学療法学会学術大会 準備委員（総務）

立候補の趣旨

現在、理学療法士20年目になります。現在は、医療法人社団苑田会苑田第三病院の科長という立場で勤務させて頂いております。臨床現場で勤務する中で、臨床や管理業務以外に、教育、研究に力を入れてまいりました。また、協会や士会に関わることで、諸先輩方に様々なことを教えて頂き、社会貢献の機会を頂いてまいりました。現在までにつちかった経験や知識を少しでも協会に貢献できたらと思い、この度、代議員（2期目）に立候補することを決意いたしました。少しでも臨床現場の声を協会に届けられるよう尽力する所存でございます。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



氏名 山手 千里
氏名ふりがな やまて ちさと
都道府県士会 東京都
年齢 49
勤務先名称 東京衛生学園専門学校

日本理学療法協会活動歴

2018年～日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2015年～2023年6月 公益社団法人 東京都理学療法士協会 理事
2015年～ 東京都理学療法士協会 学術局研修部部員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2023年 第21回日本神経理学療法学会学術大会 準備委員

立候補の趣旨

今回、公益社団法人日本理学療法士協会代議員に立候補させていただきました、山手千里です。2018年より代議員を務めさせていただいております。東京都理学療法士協会においては、学術局研修部部員の一員として士会活動に携わってまいりました。これまで、生涯学習制度に関する問い合わせを受ける機会が多く、会員対応を行ってきました。

このたび、生涯学習制度について2027年度までに段階的な見直しが行われ、さらに2029年度には抜本的な改訂が予定されていることが発表されました。こうした変更点について、一会員として理解を深めることはもちろんのこと、研修会運営に携わる立場として、会員の皆様に分かりやすく説明できるよう努めていきたいと考えております。

前期研修・後期研修ならびに登録理学療法士・認定専門理学療法士の更新に関する事業についても、引き続き展開し、会員の皆様の継続的な生涯学習を支援できるよう活動していきたいと考えております。

また、これまで学術大会の企画・運営に携わる中で、会員の皆様のご協力がいかに大きな力となっているかを常に実感してきました。その経験から、組織力の向上の重要性を改めて感じております。

今後も、日本理学療法士協会から発信される情報を的確に士会の皆様へ届ける役割を担い、代議員としての職務を誠実に全うしてまいりたいと考えております。

以上、代議員立候補の趣旨とさせていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 渡辺 重人
氏名ふりがな わたなべ しげと
都道府県士会 東京都
年齢 42
勤務先名称 世田谷リハビリテーション病院

日本理学療法協会活動歴

令和6年 第59回日本理学療法学会学術研修大会 in 東京 運営局 副局長

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成25年～ (公社) 東京都理学療法士協会 区西南部・西部ブロック部 部員
平成28～31年 (公社) 東京都理学療法士協会 中野区支部 支部長
平成28年～ (公社) 東京都理学療法士協会 代議員
平成30年 第37回東京都理学療法学会学術大会 渉外局
令和6年 第43回東京都理学療法学会学術大会 準備委員長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

理学療法士の職域拡大に本会では積極的に取り組まれており、多くの成果を挙げているものと感じます。職域については、理学療法士の主たる勤務先である病院をはじめとする医療分野において、本会の活動により、理学療法士が活躍していく場をさらに開拓していくことができるものと考えています。

職場をはじめ、東京都理学療法士協会の活動を通して、医療の現場で活躍する同年代や後輩にあたる多くの理学療法士と接する機会を得ました。その中で理学療法士が医療の現場を離れ、他業種に活動の場を移していく場面を見てきました。多くは自身のスキルを多様な分野に生かすためであり、素晴らしいことですが、処遇や待遇の改善を求めて新天地を目指す理学療法士が一定数いることも事実かと思えます。

医療分野において理学療法士の位置付けをさらに高め、理学療法士の価値を高めていくことが本会の重要な取り組みの一つと考えています。少しでもそのような活動に貢献できればと思い立候補いたします。



氏名 知脇 希
氏名ふりがな ちわき のぞみ
都道府県士会 東京都
年齢 52
勤務先名称 帝京平成大学健康メディカル学部

日本理学療法協会活動歴

2009～2012年 国際部協力部員
2015～2018年 理事
2019～2020年 アジア教育支援委員会委員
2021～2022年 他国協会との関係醸成作業部会員
2021年～ 卒前卒後シームレス化検討部会員
2020～2021年、2024年～ 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2007～2009年 千葉県理学療法士会女性会員支援推進委員会
2010～2013年 千葉県理学療法士会ワークライフバランス部
2019年～ 東京都理学療法士協会理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2025年～ 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会評議員

立候補の趣旨

日本理学療法士協会の女性会員割合は約4割に達していますが、意思決定の場である代議員に占める女性の割合は、東京においても2割に届いていません。私はこの現状を、協会が解決すべき重要な課題と捉え、今回も立候補いたしました。

2002年から2年間、JICAボランティアとしてフィジーで活動した際、理学療法士が産前指導に関わる姿を目にしました。帰国後、私自身が母親となり離職を経験したことで、日本における女性の社会的地位の低さや、キャリア継続の難しさを痛感いたしました。以来、ケア役割と就業継続に関心を寄せるようになりました。現在は東京都理学療法士協会において、地域活性局局長、ライフサポート部部長として活動を行っています。

これまでの国際的な視点と、地域・職能活動での実務経験を代議員として生かしたいと考えています。よろしくごお願い申し上げます。



氏名 石塚 亮平
氏名ふりがな いしづか りょうへい
都道府県士会 東京都
年齢 36
勤務先名称 (株)PT-OT-ST.NET

日本理学療法協会活動歴

2017年～2023年	日本理学療法士協会	理学療法ハンドブック作成委員会	委員
2023年～現在	日本理学療法士協会	新広報媒体検討部会	部会員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2022年～現在	東京都理学療法士協会	代議員	
2018年～現在	東京都理学療法士協会	大田区支部	
2020年～2022年	東京都理学療法士協会	ICT検討委員会	委員
2023年～現在	東京都理学療法士協会	広報部	部員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

日本理学療法士協会の代議員選挙に立候補させていただいた、石塚亮平と申します。私はこれまで、日本理学療法士協会では理学療法ハンドブック作成委員会や新広報媒体検討部会において広報活動に携わり、会員・国民への情報発信や協会運営の基盤づくりに関わってまいりました。また、東京都理学療法士協会では地域活動や介護予防事業などの活動を通じて、理学療法士が地域に根ざして活動できる環境づくりの重要性を実感してまいりました。

現在、理学療法士は地域包括ケアシステム、地域・産業保健分野を担う専門職として期待されています。一方で、市区町村との連携強化、会員への情報伝達の充実と効率化、地域・職域での認知度向上など、解決すべき課題も多く存在します。こうした課題に対して、これまで培ってきた経験と地域活動の実践を活かし、理学療法士協会がより一層国民の健康増進に寄与する組織となるよう貢献したく、このたび代議員に立候補いたしました。

協会・士会の社会的価値の向上につながるよう、代議員として職責を果たしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



氏名 野口 隆太郎
氏名ふりがな のぐ りゅうたろう
都道府県士会 東京都
年齢 44
勤務先名称 成城リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

東京都理学療法士協会 区西南部・区西部ブロック ブロック長 2024年～
東京都理学療法士協会 組織運営検討委員、代議員、代議員代表
第37回・43回東京都理学療法学会 準備委員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

日本理学療法管理学会 評議員
第5回・第6回日本理学療法管理学会学術大会 準備委員
第8回日本理学療法管理学会学術大会 準備委員 広報局長

立候補の趣旨

趣旨1. 生涯学習制度への意見反映
2022年度から始まった新たな生涯学習制度の中で、認定理学療法士新規取得のための臨床認定カリキュラム（脳卒中分野）を所属施設で開講しており、4年間その担当を務めてきた。初年度から8名、5名、42名、47名の参加をいただいているが、開講する立場として見えている課題（開講施設に委ねられている開催方法や費用、認定試験との整合性）は、開講した立場でないと協会へ伝えられないと考えている。自身もこの間、他領域の認定理学療法士取得に向け、他施設のカリキュラムにも参加し認定機関ごとの差を強く感じている。
今後、認定理学療法士取得もしくは他の形で生涯学習を行おうとされている若い理学療法士のために、制度の見直しは必須と考える。開講した立場だから訴えられることを代議員という立場から発信していきたい。

趣旨2. 士会・ブロック・支部活動の横展開
2024年度より東京都理学療法士協会の区西南部・区西部ブロックのブロック長を務めている。当ブロックには1700名を超える会員が在籍しており、ブロック活動や支部活動や症例検討会など様々な活動が行われている。一方、他ブロックや他県士会での活動が見えにくく良い活動の共有が行えていない。長年学会運営に携わることで得た繋がりを活かし、お互いの活動の共有の場を設け、横展開を行いやすい環境を構築し、会員にとって負担が少なくかつ魅力のある活動が増えるように取り組みたい。



氏名 鈴木 享之
氏名ふりがな すずき たかゆき
都道府県士会 東京都
年齢 47
勤務先名称 長汐病院

日本理学療法協会活動歴

2023-24 協会役員・士会長OBOGネットワーク検討部会部員
2021-22 オリパラレガシー編集作業部会部員
2017-19 スポーツ支援推進執行委員会 総務小委員会委員
2018-23 代議員（3期）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2025-現在 理事2期目／シニア人材活用委員会委員長
2016-20 代議員3期
2019-現在 スポーツ局次長
2011-22 区西北部ブロック部世話人／2019-現在 豊島区支部副支部長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私は「子どもの未来をピッカピカに」を合言葉に、スポーツ理学療法を基盤として、乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の“動き”に寄り添う活動を続けてきました。特に認定スクールトレーナー活動では、小中学校での姿勢教育や安全教育を通じ、成長期の子どもたちの身体づくりを支えています。近年注目される「小学1年生の壁」は、幼児期の運動経験の不足が背景にあり、体力や集中力の差を生むと指摘されています。スポーツ庁も、幼児期の身体活動がその後の発達に大きく影響すると報告しています。だからこそ理学療法士が早期（乳幼児期）から関わり、多様な運動や遊びを確保する発達支援を体系的に進めることが重要であり、その後の学びや生活の基盤になると考えます。この取り組みは将来的な転倒・フレイル予防にもつながり、社会全体の健康づくりに寄与します。介護予防で得た知見を生かし、子どもの障害予防と高齢者の介護予防を両輪に、健康寿命の延伸と医療費の抑制を目指します。「治す」から「育む・支える」へ進化し、地域や教育現場に根ざす理学療法士を目指します。代議員として「①認定スクールトレーナー活動による若年層への関わりの拡大」、「②多職種協働による理学療法の価値創出」、この2つを柱に協会の発展に努めます。未来を支える子どもたちの笑顔のために、理学療法士の力を社会に届けます。どうぞご支援ご協力の程、宜しくお願い致します。



氏名 金子 文成
氏名ふりがな かねこ ふみなり
都道府県士会 東京都
年齢 55
勤務先名称 東京都立大学健康福祉学部

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

学会連合及び同連合会員団体活動歴

日本基礎理学療法学会前身の、JPTF会長（2011年～2019年）
2019年～2021年、運営幹事
現在は、日本基礎理学療法学会（理事）、日本神経理学療法学会（評議員）
役職は、日本理学療法学会連合 理学療法と非侵襲脳刺激に関する検討委員会
委員長（2021年～現在）、日本基礎理学療法学会
若手ネットワーク推進部 部長（2021年～現在）

立候補の趣旨

私は、理学療法士として臨床・教育・研究の現場で約30年にわたり活動してまいりました。大学院修了後、研究所、大学、アカデミア発ベンチャーの設立などを通じて、多くの社会的体験をして参りました。今後は、日本理学療法士協会が掲げる「質の高い臨床・教育・研究を通じた社会貢献」という理念に基づき、代議員として協会運営に参画することを強く希望いたします。

理学療法を取り巻く社会環境は、高齢化・多様な健康ニーズ・医療・介護政策の変化などにより益々複雑化しており、協会がその舵取りを正しく行うことが求められています。私は、理学療法士の専門性と科学的基盤を社会により一層伝えるとともに、教育・研究分野からの視点を活かし、協会の政策立案・施策検討に貢献したいと考えております。特に重視したい項目は以下の3点です。

①理学療法教育の強化・標準化、②理学療法の科学的エビデンスの創出、
③臨床と学術の架橋。何卒、よろしくお願いいたします。



氏名 齋藤 弘
氏名ふりがな さいとうひろし
都道府県士会 東京都
年齢 47
勤務先名称 辻内科循環器科歯科クリニック

日本理学療法協会活動歴

平成26年度～平成31年度 日本理学療法士協会 代議員 令和元年～令和3年 日本理学療法士協会 地域包括ケア推進委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成29年度～令和2年度 東京都理学療法士協会 理事 令和5年度～現在 東京都理学療法士協会 理事 令和7年度～現在 東京都理学療法士協会 副会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

令和4年～ 日本理学療法管理研究会 理事 令和5年度 日本理学療法管理学会 理事

立候補の趣旨

医療・介護を取り巻く環境が大きく変化する今だからこそ、現場の声と社会の動きをつなぐ代議員の役割は、これまで以上に重要であると考えています。皆様のご理解を賜り、当選の機会をいただきました際には、これまでの士会・連盟活動を通じて培ってきた業界内外のネットワークや公益事業の企画・推進に関する経験を活かし、理学療法士が国民のために果たすべき士会活動の実現に尽力してまいります。代議員として特に注力したい点は、以下の二点です。

1. 会員の底力を高める取り組み 会員一人ひとりの知見が集積される集合知と、組織としての行動力・発信力・交渉力は、日本理学療法士協会の大きな強みです。学術大会や研修制度を通じた理学療法科学の深化、理学療法士の職域拡大、国民への直接的な価値還元につながる事業を、協会の事業目的に沿って着実に推進していくことが重要であると考えています。その上で、会員であることの意義や価値を実感できる協会運営を目指してまいります。2. 一歩先を見据えた地域リハビリテーションの創造 災害対策、教育、まちづくり、労働災害予防などの分野において、行政や関係団体、地域住民の皆様と連携することで、理学療法士の知見と技能は、まだ十分に活かされていない価値を生み出せると考えています。これまでの士会活動で得た多くの経験と成果を基盤に、今の教科書には載っていない、実践的で持続可能な地域リハビリテーションを創造し、理学療法士の職業的価値の向上に、皆様とともに取り組んでまいります。



氏名 松本 浩一
氏名ふりがな まつもと こういち
都道府県士会 東京都
年齢 42
勤務先名称 総合東京病院

日本理学療法協会活動歴

令和2年度～令和6年度 代議員
第59日本理学療法学会 運営局 局長

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成27年度～平成28年度 介護保険部 部長
平成28年度～ 代議員
平成29年度～ 災害対策委員会 委員長
平成30年度 50周年記念事業準備委員会 委員
令和7年度～ 公益事業推進委員会 委員長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

現代社会において、出生率の低下や高齢化の進展、それに伴う生産年齢人口の減少など、人口・社会構造は大きな分岐点を迎えています。これを受け、理学療法を取り巻く環境もまた、かつてない変革の時期に直面しています。今後、労働力不足が深刻化する中で、我々理学療法士自身の働き方を見直すことは喫緊の課題です。医療・介護・福祉の提供体制を維持しつつ、持続可能な職能環境を構築するため、日本理学療法士協会においても多くの困難な課題に対処していかなければなりません。変化をコントロールすることはできませんが、変化の先頭に立ち、柔軟に適応していく姿勢こそが今、本会に求められています。

私はこれまで、東京都理学療法士協会において、介護保険部や災害対策委員会、公益事業推進委員会の活動をはじめ、日本理学療法学会 運営局の運営など、多岐にわたる事業・活動に携わらせていただきました。これらの経験を通じ、多様な見識を持ち寄ることで、複雑な課題も着実に形にしていけることを深く実感しております。これまでの組織運営で培った知見と経験を最大限に活かし、不透明な時代における職能の未来を切り拓く一助になりたいと考え、このたび立候補させていただきました。